

活動報告書（1）

報告者氏名：安永啓司 所属：東京学芸大学附属特別支援学校 記録日：2013年 2月28日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年
幼稚園4歳児学年2名、5歳児学年3名（計5名）、およびその保護者
- ・ 障害名
ダウン症や自閉症を伴う知的障害のある幼児
- ・ 障害と困難の内容
開始の時点で、それぞれの発達年齢は、概ね1歳半から3歳未満の間にあった。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
連絡帳は、単に連絡事項を伝えるだけでなく、とくに発達がゆっくりでまだことばの少ない幼児に対してはその行動の意図や考えを理解する上で重要な情報を伝え合う機能がある。しかし実際には、文章筆記だけではなかなかご家庭に伝わらないことも少なくなく、その対策としてこれまで、①画像版学級便り（週1）や②壁アルバム（月1）も発刊してきた。①は、家庭において幼児のコミュニケーションツールになることも報告されたが、耐久性に問題があった。②は、校内掲示用で、幼児の体験の振り返りや今後の活動への期待を促したが、その活用は校内に限られていた。
そこで、タブレット端末を用いれば、それらのデメリットが解消されると同時に、それらのメリットを最大限に活かすことができると考えた。
- ・ 実施期間：：2012年／6月／14日から2013年／2月／12日まで
6～7月（5週）と9～11月（1台が故障したため残りの1台で回した。10週）は、輪番におけるデバイスの管理や割当を効率よく行うために、Macとデバイスを管理するソフトウェアApple Configuratorを使用した。12月以降（7週）は、1人1台ずつ割り当てられることになったので、それらは使用しなかった。貸し出しの回数は、それぞれ11回であった。
- ・ 実施者
安永啓司（主事、コーディネーター）・亀田隼人（担任）・宮井清香（担任）
- ・ 実施者と対象児の関係
対象児の学級担任、または、学部主事（兼授業担当者）

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

5名全員が自分の名前を呼ばれて手をあげる等の返事ができた。「お名前は？」と尋ねられて自分の名前を一部でも言うことができる幼児は2名いた。過去の事象、例えば、1～2時間前に遊んだこと（例：ブランコ）を言葉で尋ねても正しく答えられるものはいなかった。ただし、対象群全員が、好きな手遊び歌や踊りを数枚の絵カードの中から選んで要求することができた。

・活動の具体的内容

5名の対象児の各家庭に対して、6月から、2台のタブレット端末（iPad）に学校での最近の活動やエピソードなどの写真や動画を保存して週末に輪番で持ち帰らせた。記録は、より利便性のよい別の iPod touch で毎日の様子を収録しておき、貸し出し時にそれぞれの幼児に適した画像を編集して「写真」アプリのカメラロールにコピーして渡した。一方、週明けには各家庭の協力によって休日の様子が写真や動画に録画されて戻ってきた。学校では、できるだけ空き時間を利用して、それらをモニターに映し出して友達と一緒に話題にする時間を設けるようにした。

・対象児（群）の事後の変化

最終アンケートにおける保護者のコメントの一部

◎ 今回の iPad を利用した連絡帳は、言葉のない子どもを持つ親としては大変有り難いものでした。

◎ ビデオや写真を見て親子の会話がはずみます。学校での学習や遊びを子どもと一緒に楽しむことができる素晴らしい試みと思っています（父親）。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象群の幼児全員が、タブレットの扱いに慣れてきた。「写真」アプリのアイコン（ひまわりの花）を自分で見つけてタップしたり、写真をスワイプしたりして写真や動画を閲覧することがほぼできるようになった。

・エビデンス（具体的数値など）

最終アンケート（5家庭 10 保護者に対して 2013/02/17 に配布、2/19 に回収）の結果

Q 1. お子様の学校での様子がよくわかった。

Q 2. 連絡帳で家庭でのお子様の様子を伝える手段に役立った。

（1：全くそう思う。2：多少そう思う。3：あまりそう思わない。4：全然そう思わない。）

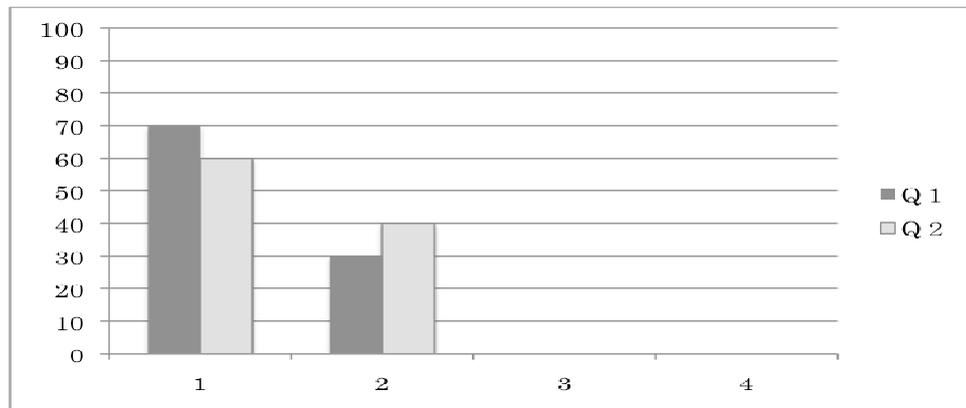


図 1. 情報共有の評価

◎全ての保護者が、学校と家庭の相互の情報共有に有益であったと知っていることがわかった。

Q 3. お子様とのコミュニケーションをとるために役に立った。

Q 4. お子様の言葉や認識の成長に有効だと感じた。

（1：全くそう思う。2：多少そう思う。3：あまりそう思わない。4：全然そう思わない。）

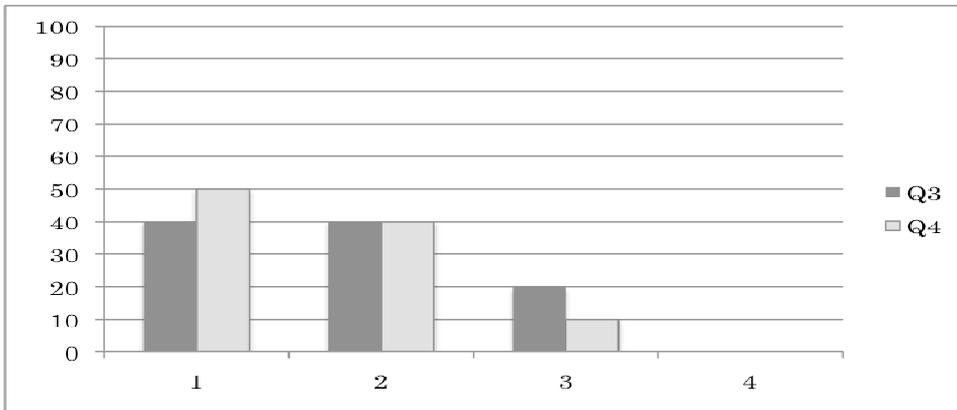


図2. 子どもへの効果と期待

◎幼児とのコミュニケーションにおいて7割の保護者が効果を感じ、9割の保護者が長期的な効果に期待していると言える。

Q5. 機器の大きさや重さ、使い勝手などには満足している。

Q6. この取組みを今後も続けてほしい。

(1:全くそう思う。2:多少そう思う。3:あまりそう思わない。4:全然そう思わない。)

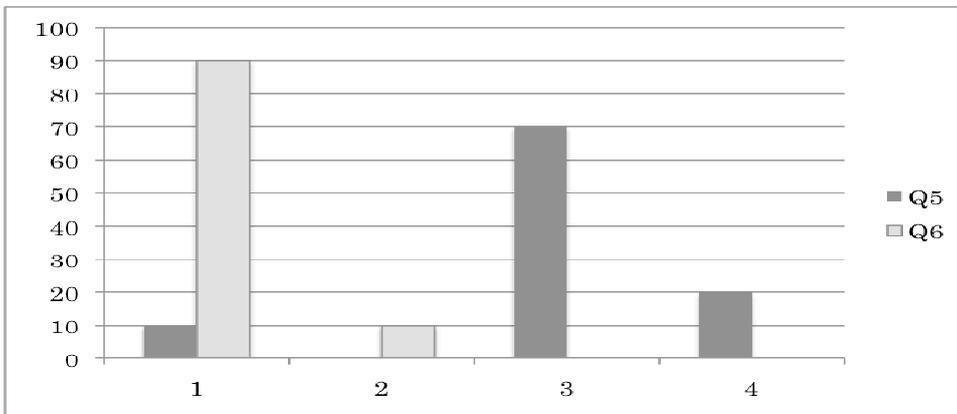


図3. 使用感と総合的評価

◎タブレット端末 (iPad) に対する使用感には9割の保護者が不満を表したが、本取組みに対する総合的な評価ではほぼ全員が継続を希望した。

・その他エピソード (画像などを含めて)

授業の実施

家庭から iPad が戻ってきた際に学校で、空き時間に 10 分間程の時間を設けて大型モニターにつないで「お休みの日はお家でなにをしたの?」と個別に対話しながら本人に操作をさせた。そのような機会を繰り返していくうちに、次第に友だちが集まるようになり、全員が iPad を持ち帰るようになった時期には、全員が一斉にモニター前に集まり、30 分間程度同じ話題で集中し続ける授業時間として成り立つようになった (下写真)。



活動報告書（2）

報告者氏名：安永啓司 所属：東京学芸大学附属特別支援学校 記録日：2013年 2月28日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年
幼稚園4歳児学年2名、5歳児学年3名（計5名）、およびその保護者
- ・ 障害名
ダウン症や自閉症を伴う知的障害のある幼児
- ・ 障害と困難の内容
開始の時点で、それぞれの発達年齢は、概ね1歳半から3歳未満の間にあった。

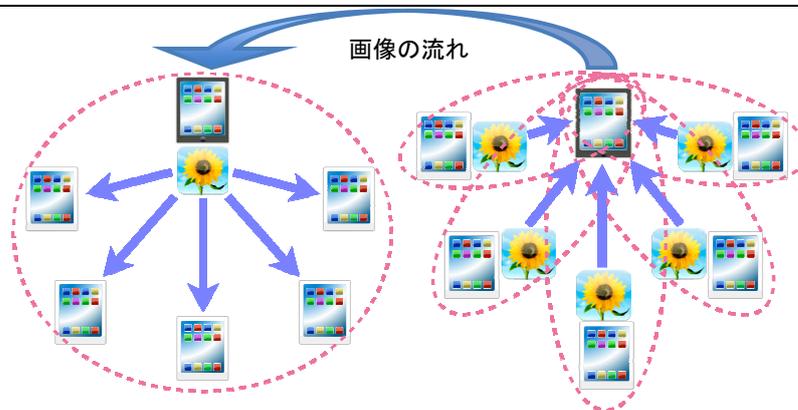
【活動目的】

- ・ 当初のねらい
連絡帳の内容は、基本的には個人情報として扱われるため、公にされることはあまりない。しかし、その中で話題にされる情報の中には、友達や保護者の間で共有したい情報も少なくない。ただし、これには、個人情報の漏洩や校外への持ち出しに当たる心配があるので、インターネットの利用を安易には行えない側面がある。
そこで、学校の休業期間中を利用した保護者各自の判断の下であれば、タブレット端末の通信機能を使用した情報共有が可能になり、クラスの保護者間のお互いの理解やコミュニケーションをさらに深めることに活用できると考えた。
- ・ 実施期間
期間は、本校の冬休み、12月22日から翌年1月7日までの17日間であった。
- ・ 実施者
安永啓司（主事、コーディネーター）・亀田隼人（担任）・宮井清香（担任）
- ・ 実施者と対象児の関係
対象児の学級担任、または、学部主事（兼授業担当者）

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況
通常連絡帳は、子どもの通学が媒介となるので、その作用は授業のある期間に限られる。よって、休業中の子どもの様子は、それが明けた後の連絡帳の記述によって把握されるのが常であった。
- ・ 活動の具体的内容
iOS6における写真アプリの共有フォトストリーム機能を用いれば、限られたメンバー間で写真を共有し、いいね！のリアクションやコメントを書くなどしてコミュニケーションを図ることができる。これに、全ての端末にその端末をオーナーにした「画像送信ポスト」という共有フォトストリームを個別に設定して全端末から画像投稿ができるようにした（下図）。
- ・ 対象児（群）の事後の変化
保護者へのアンケートの結果（2013/01/11に配布、1/15に回収。5名=100%）
 - ◎ 休みの間も、友だちや先生のことをいつも身近に感じられて楽しめた（80%）。
 - ◎ 子どもや家族とのコミュニケーションの幅が広がった（60%）。など

- ▲ コメント投稿には義務感を感じる
と面倒くさいという気もする (20%)。
- ▲ 機械に弱いのでちょっとストレスに
なった (20%)。
- ▲ 持ち運ぶには重い、大きい (100%)。
- ▲ 子どもは動画にはよく集中したが、
静止画には興味を示さなかった (20%)。



共有フォトストリームと画像送信ポストのしくみ

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

保護者のアンケートにも複数あったが、教員も、1月の登校時には久しぶりの再会にもかかわらず、いつも会っていたかのような感覚で子どもたちに接することができた。

・エビデンス (具体的数値など)

冬休み期間中の当フォトストリームへのアクセスの集計結果

- 期間中の投稿画像数 47 枚 (内、保護者からの投稿 29 枚、約 62%)
- コメント (いいね! を除く) 数合計 308 件 (画像 1 枚につき約 6.6 件)

・その他エピソード (画像などを含めて)

クラスルーム SNS での写真の一部

左写真：冬休み期間中に各家庭から投稿された写真 (共有フォトストリーム画面)、中央写真：教員が乗った電車のクイズ写真 (写真左下に各家庭からの子どもの反応のコメントが並ぶ)。右写真：家庭での子どものスナップ写真 (年末に大掃除の手伝いをしているところで、各家庭から賞賛のコメントが集まった)。

